

第618回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組
「にいがた偉人伝」



平成 28 年 6 月 22 日

BSN新潟放送

第618回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年6月22日(水) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相羽利子	副委員長	古賀豊
委員	正道かほる	委員	佐藤元
委員	細田康	委員	高木言芳

○委員側欠席者

委員	小島良子	委員	佐々木広介
委員	池田幸博	委員	服部誠司

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報制局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

<説明員> 報道制作局情報センター プロデューサー 南加乃子

事務局出席者

事務局長	増山由美子 (考査広報部長)
事務局員	丹羽崇 (社長室長)

4. 議題

1 報告事項

・7月の新番組・単発番組について (各局長)

2 審議番組 テレビ番組

・「にいがた偉人伝 荻野久作・鷺尾雨工」(2回分)

(荻野久作 2016年5月14日(土) 14時45分～15時放送)

(鷺尾雨工 2016年5月28日(土) 16時～16時15分放送)

5. 議事の概要

各局長からの7月度番組報告に続いて、「にいがた偉人伝」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- にいがた偉人伝は地元の放送局だからこそできる良い内容の番組。16時という肩のこらない時間帯の「教養番組」。新潟の人ならぜひ知ってほしい50人を取り上げているが、なぜこの50人を選んだのか。コンセプトはあるのか。荻野久作はオギノ通りで有名な人だが、生まれてからの歩みについて普通の人は知らないと思う。それをアニメで紹介したのは分かりやすく、使い方に感心した。鷺尾雨工は対照的に実写のみだったが、面白く分かりやすくまとめて紹介していた。BSNのホームページをみるとビーエヌエヌ教育文化振興基金（教文）による番組と紹介されているが、教文とはどのような事業を行っているのか？また、にいがた偉人伝はテレビだけでなくラジオでも放送しているが、ラジオで放送する場合にどんな工夫をしているのか。
- 15分の番組とはいえ、これだけの人たちの資料集めと構成を毎週行っている製作スタッフに敬服する。取材を重ねて、歴史の羅列ではなくストーリー性を大事にして見やすい番組にしている、描き方に工夫を感じる。主人公には家族など周りの助けがあったから後世に名を遺したという点を必ず盛り込んでいて、非常に腑に落ちる作り。荻野の回はアニメを取り入れ、見やすく、分かりやすく、また、ナレーションの田巻アナウンサーの声は優しさに溢れている。鷺尾はナレーションの近藤アナウンサーに力強さがあって聞きごたえがある。
- とても丁寧に作られていて、分かりやすい番組。見ていると、新潟もまんざらでないと自己肯定できて、1つの自信につながる。荻野は生い立ちを番組で初めて知った。アニメがうまく使われていた。関係者のインタビューもその人物を表すのにとってもよかった。肉声や映像を良く探し出して、主人公と見る者との距離が縮まった気がした。鷺尾は黒崎図書館に碑があるのは知っていたが、写真にナレーションをかぶせるなど、ドラマのように楽しんで見させてもらった。波乱万丈の生き方が分かり、その世界にどっぷりはまった。子供の頃は偉人伝が苦手だったが、郷土にゆかりのある人物の功績を今の子供たちにもぜひ見てほしい。ただ、他の番組との兼ね合いがあるとは思いますが、どの回も同じ時間に放送してほしい。
- 2作を通じて感じたことは、とかく今の時代はインターネットで手軽に情報を知った気になるが、番組はネットと違って、荻野の奥さんの言葉を通して生活の背景が分かったりして良いと思った。ただし、アニメの有る無しで番組のトーンが変わる可能性があり、是非が分かれるところ。また、対象年齢を絞り込んでいるようだが、もっと親子で見ることができるよう低い年齢に合わせて番組作りをする必要もあるのではないか。

- 主人公の遺族など関連の人にもきちんと取材していて、50 人を取材して回るのはとても大変な作業量であると思うが、力が入っているのを感じた。単に放送するだけでなく、小学生にみせることを意識した作り。鷺尾の回は番組の最初に直木賞の説明をしていて、小学生にも配慮していると思った。荻野の回はアニメも駆使して、人柄もとても伝わり、良い出来。これまでに 3 分の 2 ほどの偉人が紹介されたと思うが、これからも取材を続けて、最後までパワーを落とさずに頑張ってもらいたい。
- 荻野久作は今まで何度もテレビで取り上げられ、新潟県民のみならず世界的に有名だとは知っていたが、今回の番組で荻野の人柄や環境など知らなかった事をたくさん知ることができた。特に母親や奥さんとの関わりを通して荻野の人柄が大変良く表現されていたと思う。にいがた偉人伝の良さは子どもから大人まで年齢を問わず「知るきっかけ」を作ってくれることだと思う。一方、鷺尾雨工は直木賞作家という事しか知らなかった。この番組は人としての魅力を伝えてくれるので、「この人をもっと知りたい」と思わせてくれる。また、荻野のアニメは時代背景に合っていたと思うが、鷺尾ではアニメを使用しておらず、アニメを取り入れるか入れないかの基準はあるのか？これからも、たくさんの偉人を紹介して子どもたちが「新潟は凄い」と思う機会を増えることを期待している。
- 今回、紹介された 2 人もそうだが、地元で育って地元で頑張ってきた人が、意外と地元での評価が低く、むしろ県外から来た人の評価が高いケースが少なくない。もっと県人を県内でバックアップする土壌が作られたら良いと思った。

～報道制作局情報センター・南プロデューサーから～

- 貴重なご意見、ありがとうございました。今回の 50 人は数々の候補の中から上中下越佐渡という地域のバランスを考えたり、資料が現存するかどうかなどを考慮したりして選んだ。アニメは 50 回の番組のうち 20 回に入れる予定。アニメを作るには例えば主人公の家紋を確認するレベルから始まるため、準備に時間がかかることもあって、アニメによる演出がより効果的な人を選んだ。子供には内容的に多少難しい面もあるが、難しいから見せないではなく、1 つでも 2 つでも興味も持ってもらえる番組にして、偉人を知るきっかけにしてほしい。教文は公益財団法人として基金の利息で県内の学校や団体・個人に助成を続けてきたが、基金の趣旨に沿う形で番組制作にも取り組んでいる。またラジオは映像内容をコメントに書き起こすなどテレビの原稿をリライトして放送している。

～編成局・島田局長から～

- テレビでは基本的に毎週土曜日の午後 4 時から放送しているが、全国ネットの番組を放送する関係で数か月に一度、放送時間を移動することがあった。今後も放送時間を

移動する場合は、テレビラジオをはじめホームページや新聞などできちんと告知して
いきたい。

【文責・番組審議会事務局】
